

「社会に開かれた教育課程」は何を目指すのか

文部科学省初等中等教育局主任視学官

田村 学

発想の転換

■ 教師が身に付けさせる

教師が学ばせる(未熟な学習者): **教師中心**



■ 子供は自ら身に付ける

子供が自ら学ぶ(有能な学習者): **子供中心**

社会に開かれた教育課程

社会に開かれた教育課程

- ① 社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ② これからの社会を創り出していく子供たちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。
- ③ 教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な知識や力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

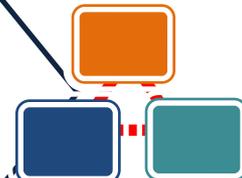
どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成

知識の力を削減せず、質の高い
理解を図るための学習過程
の質的改善

深い学び
対話的な学び
主体的な学び



※高校教育については、些末な事実に基づく知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

学びに向かう力
人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか



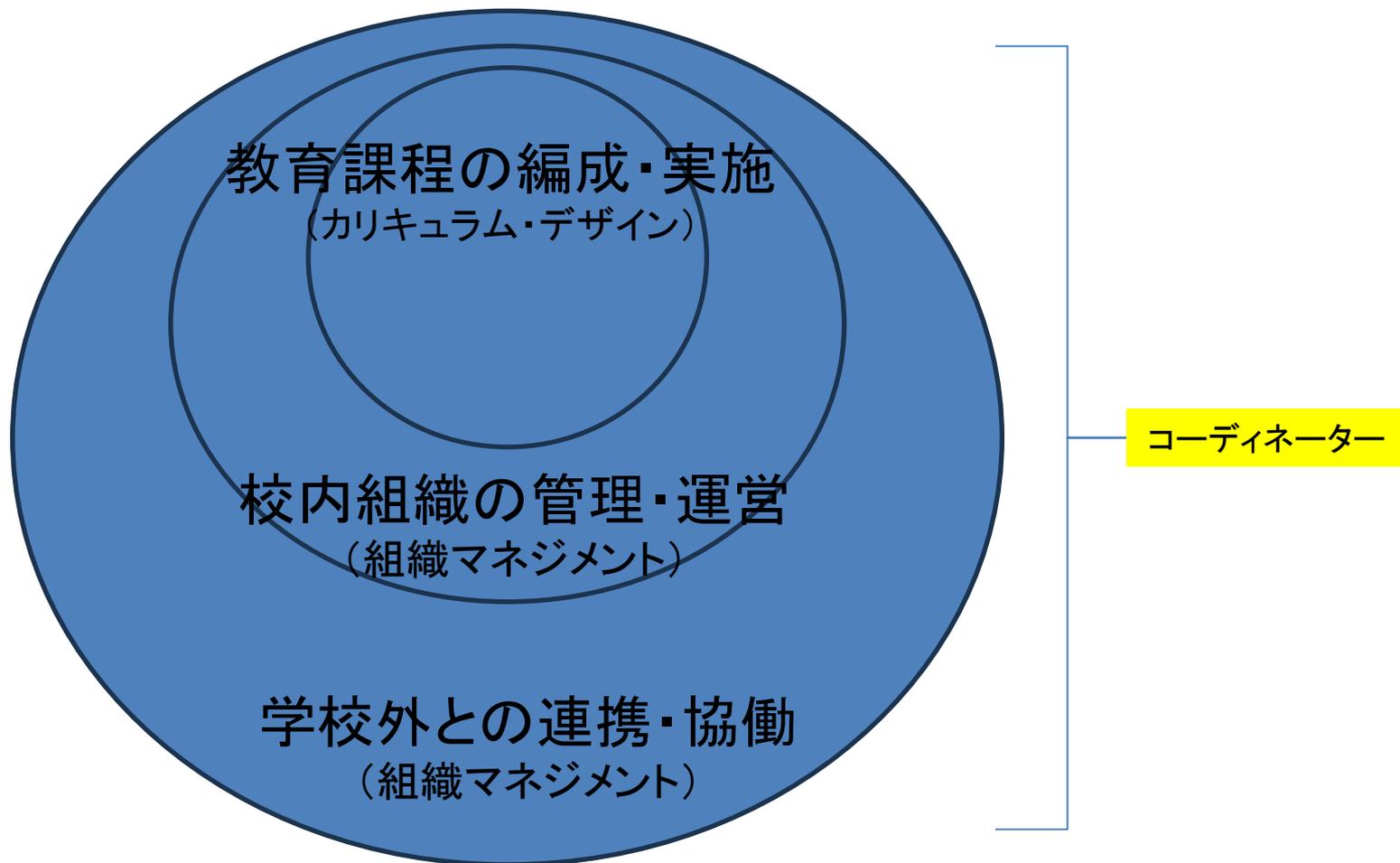
何を理解しているか
何ができるか

知識・技能

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

カリキュラム・マネジメントの充実



(参考: 倉本哲男(静岡文化芸術大学)を参考に田村が作成)

主体的・対話的で深い学び

主体的・対話的で深い学びの実現 （「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）について（イメージ）

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすること

【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

【例】

- 学ぶことに興味や関心を持ち、毎時間、見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる
- 「キャリア・パスポート（仮称）」などを活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする



主体的な学び
対話的な学び
深い学び

学びを人生や社会に
生かそうとする
学びに向かう力・
人間性等の涵養

生きて働く
知識・技能の
習得

未知の状況にも
対応できる
思考力・判断力・表現力
等の育成

【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

【例】

- 実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べたり、実社会の人々の話を聞いたりすることで自らの考えを広げる
- あらかじめ個人で考えたことを、意見交換したり、議論したり、することで新たな考え方に気が付いたり、自分の考えをより妥当なものとしたりする
- 子供同士の対話に加え、子供と教員、子供と地域の人、本を通して本の作者などとの対話を図る



【深い学び】

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

【例】

- 事象の中から自ら問いを見だし、課題の追究、課題の解決を行う探究の過程に取り組む
- 精査した情報を基に自分の考えを形成したり、目的や場面、状況等に応じて伝え合ったり、考えを伝え合うことを通して集団としての考えを形成したりしていく
- 感性を働かせて、思いや考えを基に、豊かに意味や価値を創造していく



主体的・対話的で深い学び

■主体的な学び

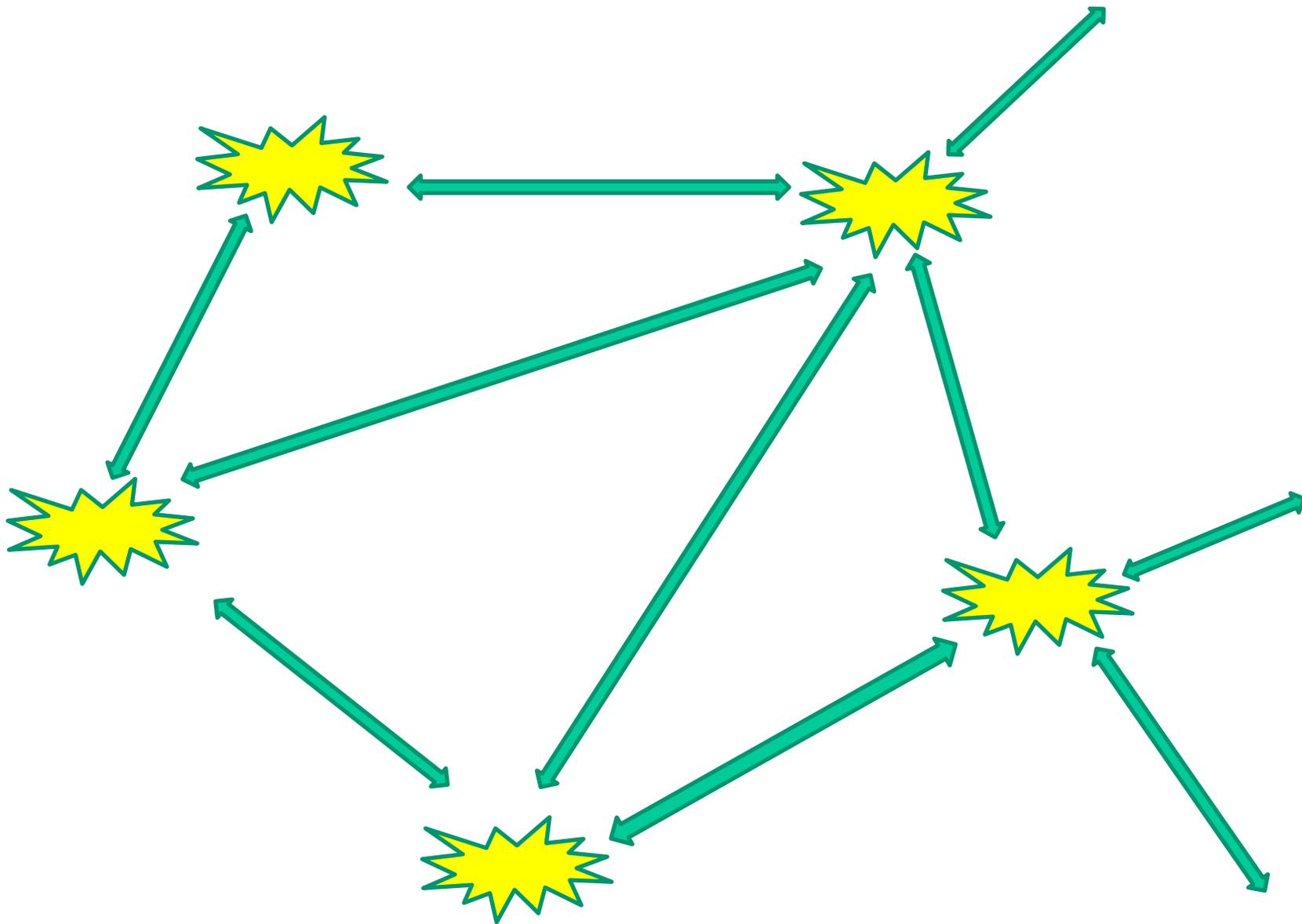
学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

■対話的な学び

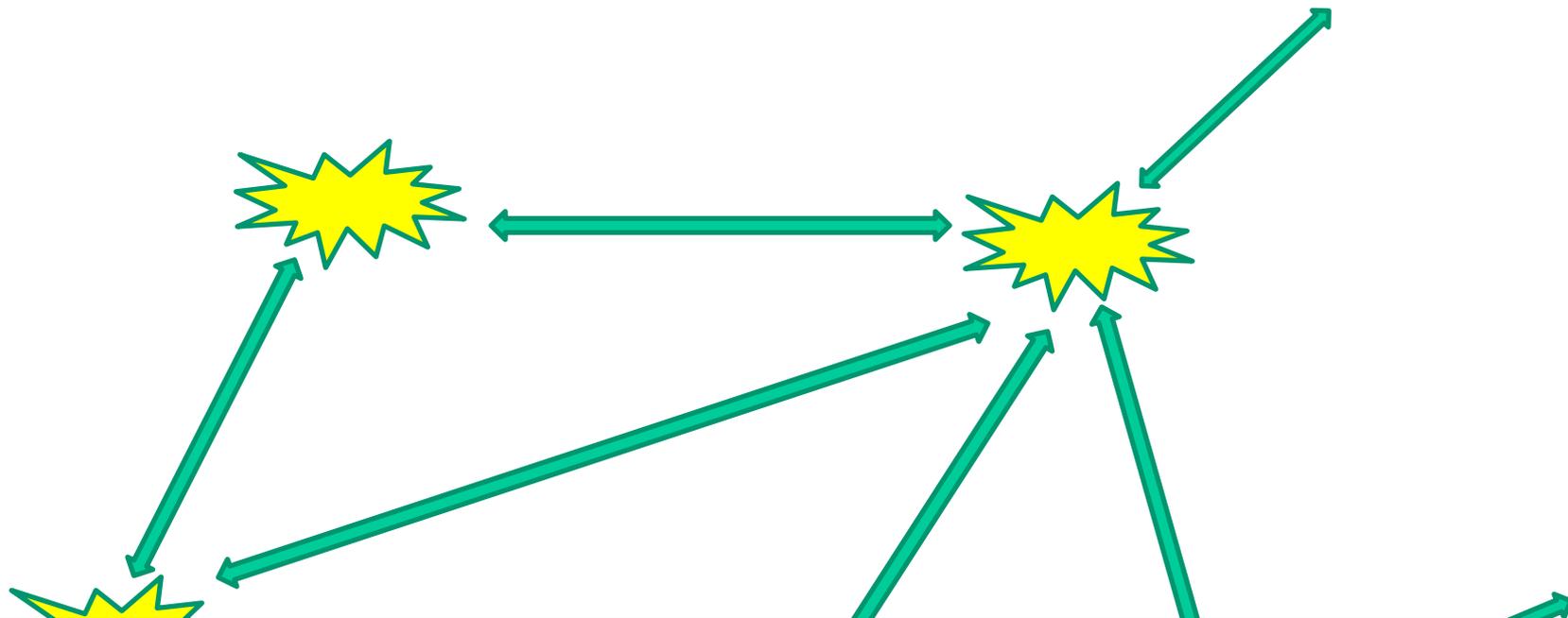
子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

■深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう」**深い学び**」が実現できているか。

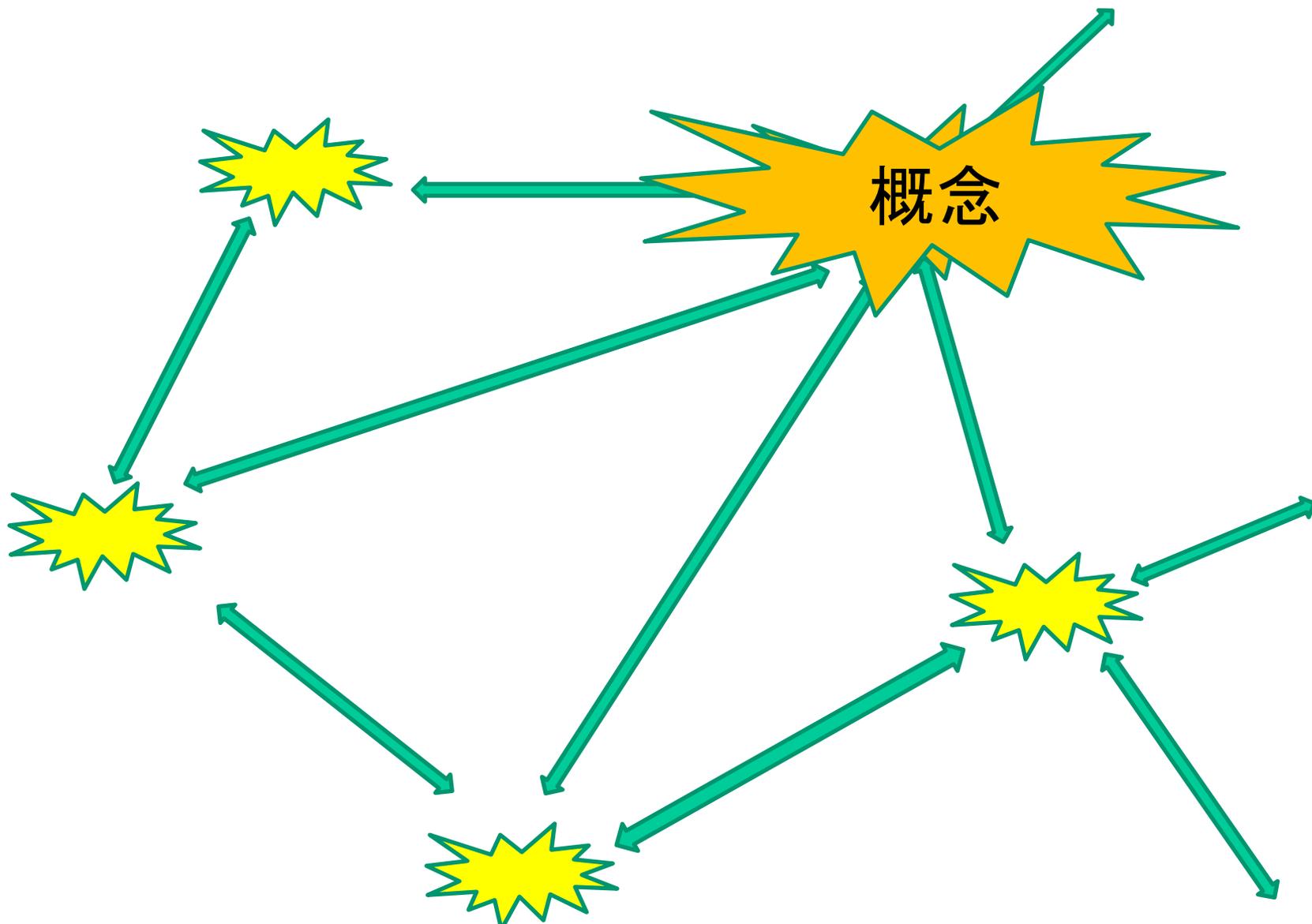


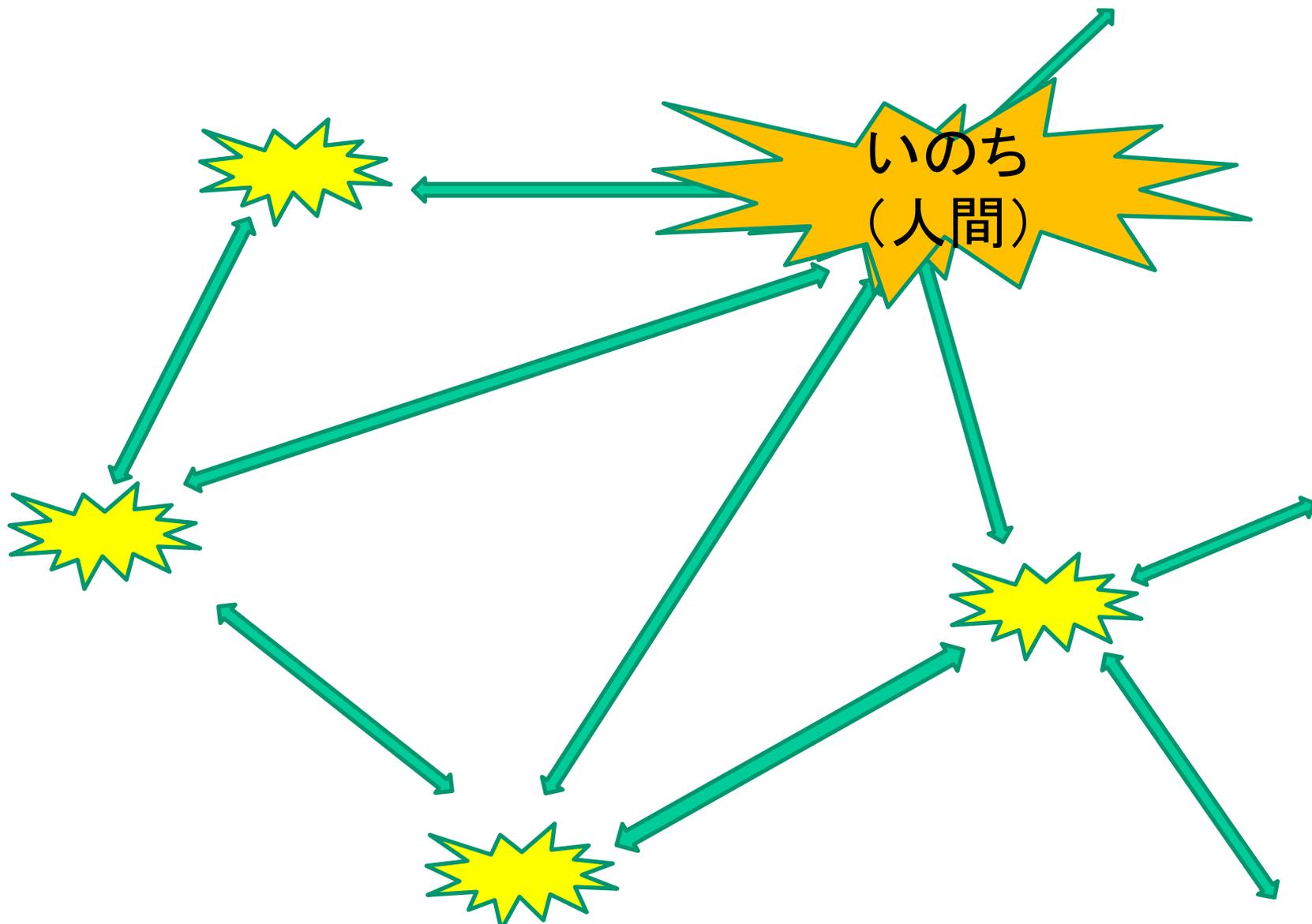
知のネットワーク化(精緻化)



事実にて個別的な知識→概念的で構造的な知識







深い学び

「知識・技能をつなぐ（関連付ける）」

知識・技能が目的や価値、手応えとつながる

学びを人生や
社会に生かす

学びに向かう力
人間性等

「深い学び」とは、知識・技能が関連付いて構造化されたり身体化されたりして高度化し、**駆動する**状態に向かうこと



知識・技能

生きて働く

思考力・判断力・表現力等

知識・技能が相互につながり
(空間・時間)

未知の状況で
活用できる

知識・技能が場面や状況とつながる

深い学び

「知識・技能をつなぐ（関連付ける）」

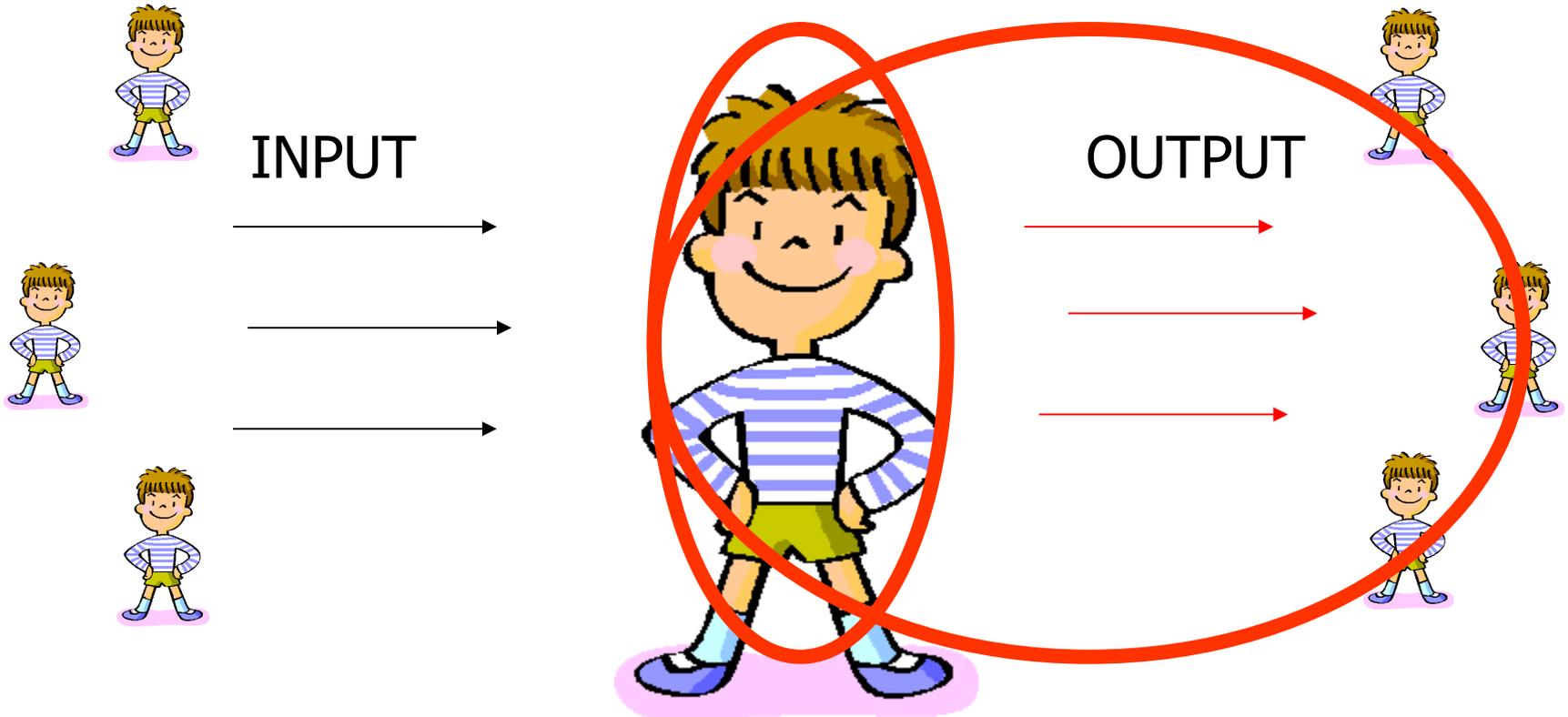


「活用・発揮」

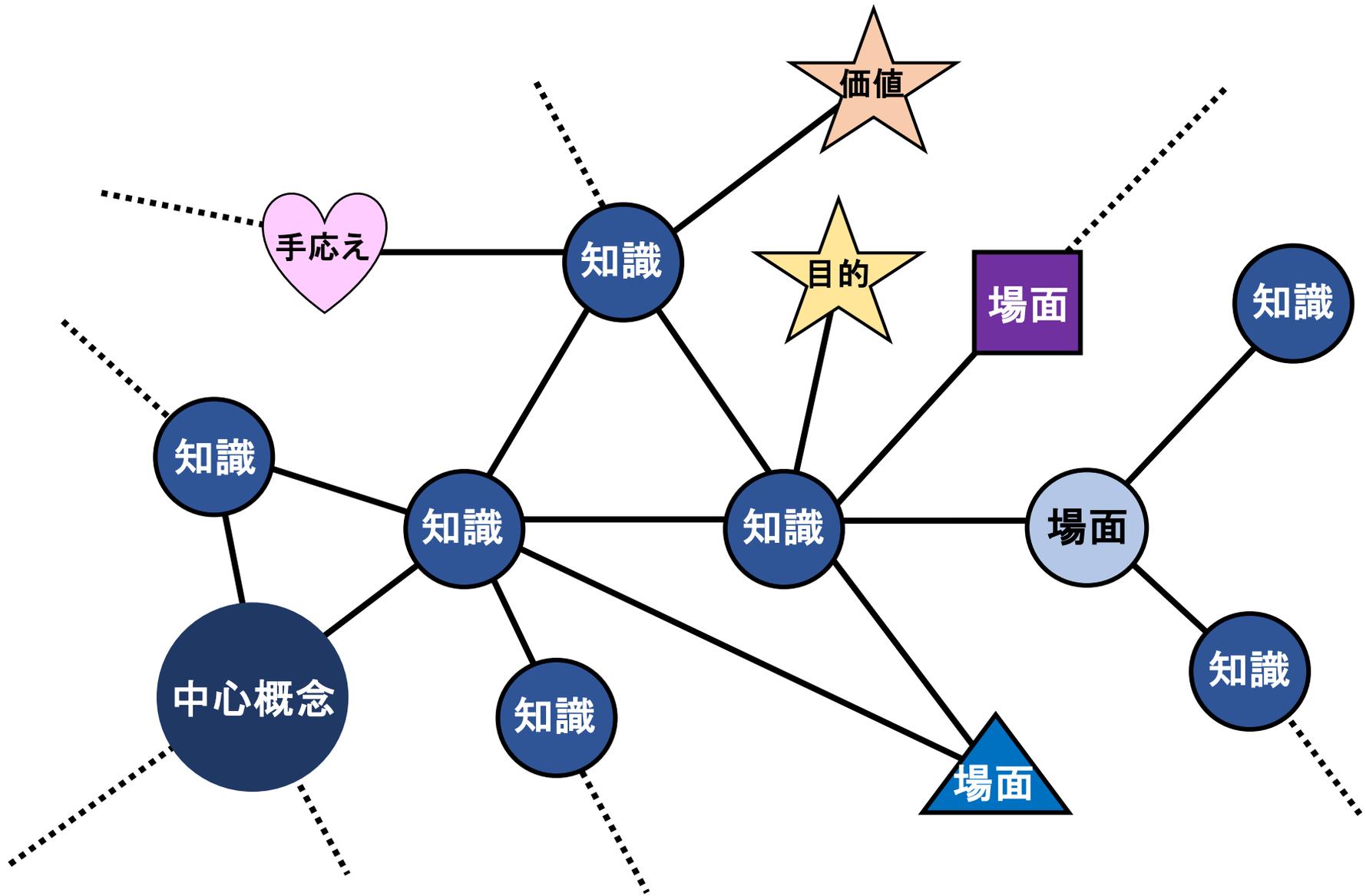
A:内化する



B:外化する



複雑に絡み合う「知識の構造」



活用・発揮による精緻化

■活用・発揮して情報を処理する→長期記憶

- ①精緻化：既存の知識と結び付ける
- ②有意味化：意味を持たせる（例：語呂合わせ）
- ③体制化：同じ仲間をまとめる
- ④イメージ化：具体と結び付けたり図式化したりする
- ⑤感情化：好ましい感情情報と結び付ける

* ②、③、④、⑤は①に含まれると考えることができる。

（参考：福田由紀（法政大学教授）を参考に田村が作成）

探究の価値

深い学び

「知識・技能をつなぐ（関連付ける）」



「活用・発揮」



「探究のプロセス」

探究(活用・発揮)の授業づくり



■実社会や実生活における問題について、児童が自ら課題を設定する。

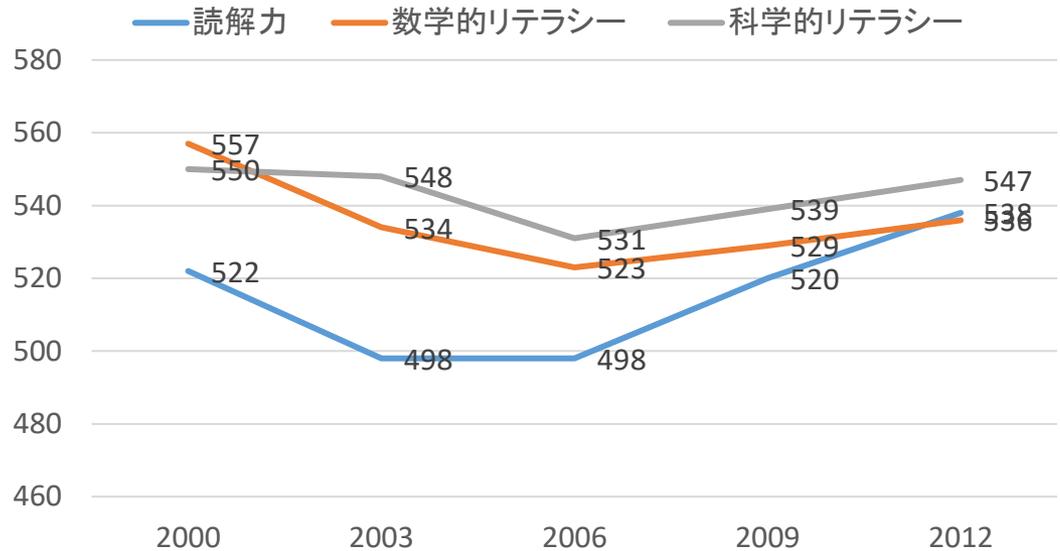
■探究の過程を経由する。
①課題の設定
②情報の収集
③整理・分析
④まとめ・表現

■自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される。

PISA調査の結果の推移と 生活・総合の履修との関係

PISAの結果が下降から上昇傾向に。2009年、2012年の調査対象となった高校1年生は、小学校入学から調査段階まで、生活科、総合的な学習の時間を全て履修してきている生徒である。

PISA 経年変化



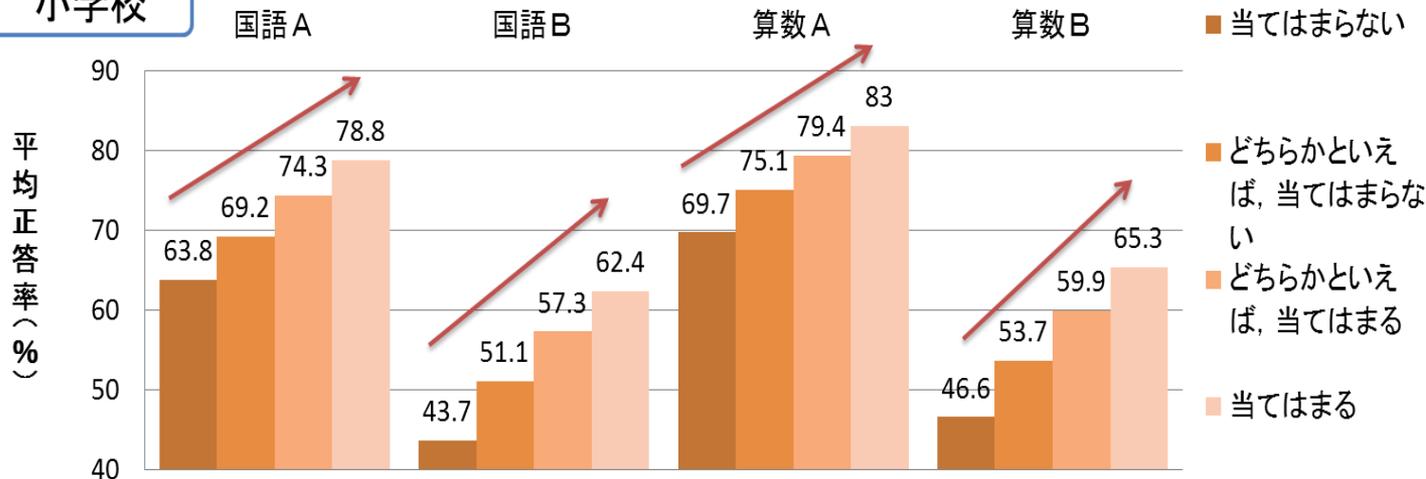
平成	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26				
西暦	91	92	93	94	95	96	97	98	99	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14				
生活・総合の履修暦																												
PISA2000	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1																		
PISA2003				小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1															
PISA2006							小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1												
PISA2009										小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1									
PISA2012													小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1						
学習指導要領																												
小学校			生活(H元年版)										生活・総合(H10年版)						生活・総合(H20年版)●									
中学校													総合(H10年版)										総合(H20年版)					
高等学校														総合(HE11年版)										総合(H21年版)				

総合的な学習の時間

H26(2014) 学力・学習状況調査

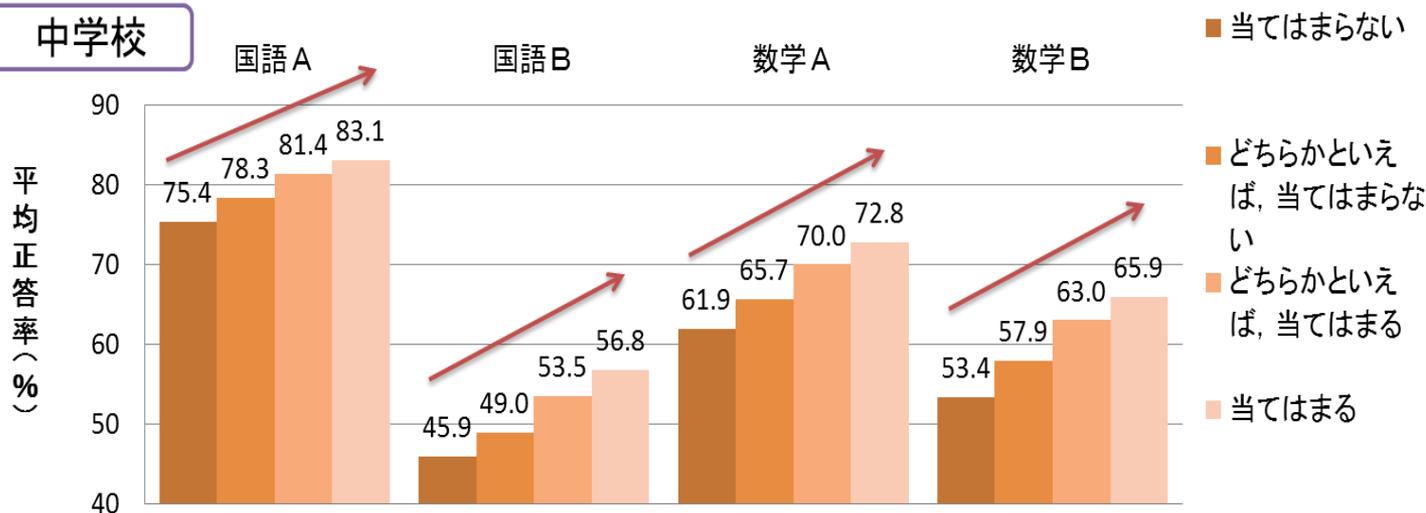
児童(生徒)質問紙(40):「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」

小学校



小学校	相関が見られた都道府県数
国語A	47
国語B	47
算数A	47
算数B	47

中学校



中学校	相関が見られた都道府県数
国語A	39
国語B	41
数学A	44
数学B	44

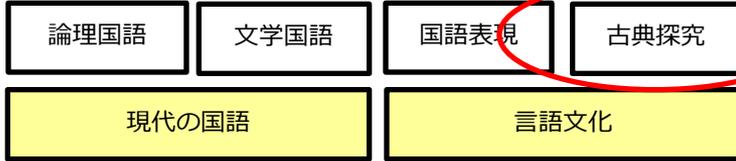
高等学校の教科・科目構成について

(科目構成等に変更があるものを抜粋)

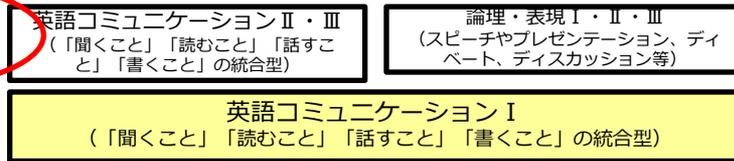
■ ……共通必修
■ ……選択必修

※ グレーの枠囲みは既存の科目

国語科

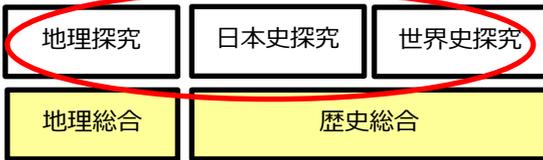


外国語科



※英語力調査の結果やCEFRのレベル、高校生の多様な学習ニーズへの対応なども踏まえ検討。

地理歴史科



公民科



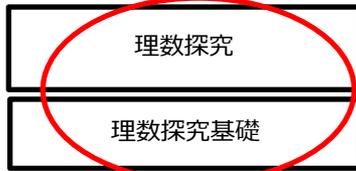
家庭科



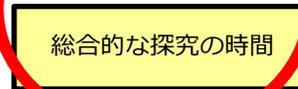
情報科



理数科



総合的な探究の時間



※ 実社会・実生活から自ら見出した課題を探究することを通じて、自分のキャリア形成と関連付けながら、探究する能力を育むという在り方を明確化する。

数学科



理科

